

二〇二三年度

豊島岡女子学園中学校

入学試験問題

(三回)

国語

注意事項

- 一. 合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 二. 問題は から , 2 ページから 19 ページまであります。
合図があつたら確認してください。
- 三. 解答は、すべて指示に従って解答らんに記入してください。

□ 次の文章を読んで、後の一から九までの各問いに答えなさい。

(ただし、字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。)

昨今、「正しさは人それぞれ」とか「みんなちがってみんないい」といった言葉や、「現代社会では価値観が多様化している」「価値観が違う人とは結局のところわかりあえない」といった言葉がA|L|F|しています。このような、「人や文化によって価値観が異なり、それぞれの価値観には優劣ゆうれつがつけられない」という考え方を相対主義といいます。「正しさは人それぞれ」ならまだしも、「絶対正しいことなんてない」とか、「何が正しいかなんて誰だれにも決められない」といったことさえ主張する人もけっこういます。

こうしたことを主張する人たちは、おそらく多様な他者や他文化を尊重しようと思っっているのでしょう。①|そういう善意はよいものではありませんが、はたして「正しさは人それぞれ」や「みんなちがってみんないい」という主張は、本当に多様な他者を尊重することにつながるのでしょうか。そもそも、「正しさ」を各人が勝手に決めてよいものなのか。それに、人間は本当にそれほど違ちがっているのかも疑問です。

たしかに、価値観の異なる人と接触せつしよくすることがなかったり、異なっ^ていても両立できるような価値観の場合には、「正しさは人それぞれ」と言っ^ていても大きな問題は生じません。たとえば、訪ねることも難しい国の人たちがどのような価値観によって生活していても、自分には関係がありません。またたとえば、野球が好きの人とサッカーが好き人は、スポーツのネタでは話が合わないかもしれませんが、好きなスポーツの話さえしなければ仲良くできるでしょう。サッカーが好きなのは間違まちがっていて、すべての人は野球が好きでなければならぬ、なんていうことはありません。

②|こうした場面では、「人それぞれ」「みんなちがってみんないい」でよいでしょう。しかし、世の中には、両立しない意見の中から、どうにかして一つに決めなければならぬ場合があります。たとえば、「日本の経済発展のためには原子力発電所が必要だ」という意見と、「事故が起こった場合の被害ひがいが大きすぎるので、原子力発電所は廃止はいしすべきだ」という意見とは、両立しません。

どちらの意見にもっともな点があるかもしれないませんが、日本全体の方針を決めるときには、どちらか一つを選ばなければなりません。原子力発電所を維持するのであれば、廃止した場合のメリットは捨てなければなりません。逆もまたしかり。「みんなちがってみんないい」というわけにはいかないのです。

③そんなときには、どうすればよいでしょうか。「価値観が違う人とはわかりあえない」のであれば、どうすればよいのでしょうか。

そうした場合、現実の世界では権力を持つ人の考えが通ってしまいます。本来、政治とは、意見や利害が対立したときに妥協点や合意点を見つけたすためのはたらきなのですが、最近では、日本でもアメリカでもその他の国々でも、権力者が力任せに自分の考えを実行に移すことが増えていきます。批判に対してきちんと正面から答えず、単に自分の考えを何度も繰り返したり、論点をずらしてはぐらかしたり、権力を振りかざして脅したりします。

そうした態度を批判するつもりで「正しさは人それぞれだ」とか「みんなちがってみんないい」などと主張したら、権力者は大喜びでしょう。なぜなら、もしもさまざまな意見が「みんなちがってみんないい」のであれば、つまりさまざまな意見の正しさに差がないとするなら、選択は力任せに行うしかないからです。「絶対正しいことなんてない」とか「何が正しいかなんて誰にも決められない」というのであればなおさらです。決定は正しさにもとづいてではなく、人それぞれの主観的な信念にもとづいて行うしかない。それに納得できない人とは話し合っても無駄だから権力で強制するしかない。こういうことになってしまいます。

つまり、「正しさは人それぞれ」や「みんなちがってみんないい」といった主張は、多様性を尊重するどころか、異なる見解を、権力者の主観によって力任せに切り捨てることを正当化することにつながってしまっているのです。これでは結局、「力こそが正義」という、困った世の中になってしまいます。それは、「④」社会です。

では、どうしたらよいのでしょうか。

よくある答えは、「科学的に判断するべきだ」ということです。科学は、「客観的に正しい答え」を教えてくれると多くの人は考

えています。このように、さまざまな問題について「客観的で正しい答えがある」という考え方を、ふへん普遍主義といえます。探偵マ
ンガの主人公風に言えば、「真実は一つ！」という考え方だといってもよいかもしれません。先ほどの相対主義と反対の意味の言葉
です。「価値観が多様化している」と主張する人たちでも、科学についてはふへん普遍主義的な考えを持っている人が多いでしょう。「科
学は人それぞれ」などという言葉はほとんど聞くことはありません。

そして実際、日本を含めてほとんどの国の政府は、政策を決めるにあたって科学者の意見を聞くためのBキカ^んや制度を持って
います。日本であれば、各省庁の審議会しんぎ（専門家の委員会）や日本学術会議などです。「日本の経済発展のために原子力発電所は必
要なのか」「どれぐらいの確率で事故が起こるのか、事故が起こったらどれぐらいの被害ひがいが出るのか」といった問題について、科学
者たちは「客観的で正しい答え」を教えてくださいに思えます。

ところが、実は科学は「⑤」ではないのです。科学者の中にも、さまざまな立場や説を取っている人がいます。そうした多
数の科学者が論争する中で、「より正しいような答え」を決めていくのが科学なのです。それゆえ、「科学者であればほぼ全員が賛成
している答え」ができあがるには時間がかかります。みなさんが中学や高校で習うニュートン物理学は、いまから三〇〇年以上も
昔の一七世紀末に提唱されたものです。アインシュタインの相対性理論や量子力学は「現代物理学」と言われますが、提唱された
のは一〇〇年前（二〇世紀初頭）です。現在の物理学では、相対性理論と量子力学を統一する理論が探求されていますが、それにつ
いては合意がなされていません。合意がなされていないからこそ、研究が進められているのです。

さいせんた最先端の研究をしている科学者は、それぞれ自分が正しいと考える仮説を正当化するために、実験をしたり計算をしたりしてい
ます。つまり、科学者に「客観的で正しい答え」を聞いても、何十年も前に合意が形成されて研究が終了しゅうりょうしたことは教え
てくれますが、まさしく今現在問題になっていることについては、「自分が正しいと考える答え」しか教えてくれないのです。⑥あ
る意味では、「科学は人それぞれ」なのです。

このように考えてくると、科学者であっても、現時点で問題になっているような事柄ことがらについて、「客観的で正しい答え」を教えてください。ではどうしたらよいのでしょうか。自分の頭で考える？ どうやって？

この本では、「正しさ」とは何か、それはどのようにして作られていくものなのかを考えます。そうした考察を踏まえて、多様な他者と理解し合うためにはどうすればよいのかについて考えます。ここであらかじめ結論だけ述べておけば、私は、「正しさは人それぞれ」でも「真実は一つ」でもなく、人間の生物学的Cトクセイを前提としながら、人間と世界の関係や人間同士の間の関係の中で、いわば共同作業によって「正しさ」というものが作られていくのだと考えています。それゆえ、多様な他者と理解し合うということとは、かれらとともに「正しさ」を作っていくということです。

これは、「正しさは人それぞれ」とか「みんなちがってみんないい」といったお決まりの簡便な一言を吐けば済んでしまうような安易な道ではありません。これらの言葉は、言ってみれば相手と関わらないで済ますための最後通牒つうちようです。みなさんが意見を異にする人と話し合った結果、「結局、わかりあえないな」と思ったときに、このように言うでしょう。「まあ、人それぞれだからね」。対話はここで終了しゆうりようです。

ともに「正しさ」を作っていくということは、そこで終了しゆうりようせずに踏みとどまり、とことん相手と付き合い合うという面倒な作業です。相手の言い分を受け入れて自分の考えを変えなければならぬこともあるでしょう。それでプライドが傷つくかもしれませんが、しかし、傷つくことを嫌いやがっているのは、新たな「正しさ」を知って成長していくことはできません。

最近、「正しさは人それぞれ」と並んで、「どんなことでも感じ方しだい」とか「心を傷つけてはいけない」といった感情尊重の風潮も広まっています。しかし、学び成長するとは、今の自分を否定して、今の自分でないものになるということです。これはたいへんに苦しい、ときに心の傷つく作業です。あえていえば、⑦成長するためには傷ついてナンボです。若いみなさんには、傷つくことを恐れずに成長の道を進んでほしいと思います（などと言うのは説教くさくて気が引けますが）。

（ 『みんな違ってみんないい』のか？ 相対主義と普遍主義の問題』 山口 裕之 ）

〔注〕 ＊ 最後通牒^{つうてつ}＝ここでは、話し合いを打ちきり、交渉^{こうしょう}している相手に一方的に突^つきつける最終的な通達のこと。

問一 ―線 A 「ルフ」・B 「キカン」・C 「トクセイ」のカタカナを正しい漢字に直しなさい。

(一画一画でいいにはつきりと書くこと。)

問二 ―線①「そういう善意」とはどのようなものですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分とは絶対にわかりあえないものだとしても、自分と相手の考えに優劣^{ゆうれつ}をつけずに平等^{あひか}に扱おうとするもの。

イ 他文化との交流が避けられない現代社会でうまく他者と交流するために、相手の考えをよく聞こうとするもの。

ウ 異なる意見を交わすときにお互^{たが}いが傷つかずに済むように、相手の立場に立って考え、思いやろうとするもの。

エ 世界中の多様な他者や他文化の存在を傷つけないために、あえて異なる考えの者とは距離^{きょり}をとろうとするもの。

オ 絶対的に正しいものはないと考え、自分とは異なる相手や文化を認め、その存在を重んじようとするもの。

問三 ―線②「こうした場面ではくよいでしよう」とありますが、そのように言える理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア それぞれ考えが異なっていたとしても、そのことによって深刻な問題が生じるわけではないから。

イ 取り上げている話題自体が、人間の根本的な性質には直接関係しない表面的なものであるから。

ウ 異なる意見のそれぞれに説得力があるため、どちらかだけを正しいとすることは難しいから。

エ どんなに価値観が異なった人同士でも、すべての話題で意見が対立することなどありえないから。

オ 人それぞれ異なる意見を持っていることは、かえって多様な文化の形成につながっていくから。

問四 ー線③「そんなとき」とありますが、ここで述べられている状況じょうきょうと同様の具体例として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 校内緑化を目的として花を植えるべきか、校内の清潔感を保つために掃除そうじを徹底てつていするべきか、意見が分かれたとき。
- イ 周囲の人に迷惑めいわくをかけないように犬をしつけるべきか、家族として犬を大切にすべきか、意見が分かれたとき。
- ウ 安全のために監視かんしカメラを増設するべきか、プライバシー保護のために撤去てつぎよするべきか、意見が分かれたとき。
- エ 施設内の混雑を解消するために入場制限をかけるべきか、施設しせつを予約制にするべきか、意見が分かれたとき。
- オ 感染防止のために講演を中止にするべきか、観客のためにオンライン開催かいさいにするべきか、意見が分かれたとき。

問五 空らん「④」に入る内容として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 皆みなが権力者の顔色をうかがって自分の行動を決める
- イ 権力など持たない大多数の人々の意見が無視される
- ウ 大声で主張した人々の意見だけが簡単にまかり通る
- エ それぞれの主観的な信念が何よりも尊重される
- オ 皆みなが自分のことだけ考え、他者の存在を否定する

問六 空らん「⑤」に入る言葉として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一人前
- イ 一方的
- ウ 一大事
- エ 一枚岩
- オ 一時的

問七 ―線⑥「ある意味では、『科学は人それぞれ』なのです」とありますが、どういふことですか。その説明として最も適当なものをおの次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 定説をくつがえす新たな理論を提唱する科学者と、その理論の正当性を疑う科学者との間で、理論の是非をめぐって激しい論争が起きているといふこと。

イ 科学者ごとに意見が異なる問題については、結局どの意見も信用できないので、政府主導で問題への対応を進めていくしかないといふこと。

ウ 科学が客観的で正しい答えを示すことを可能にするためには、長い時間をかけて論争して、様々な意見を統一する必要があるのだといふこと。

エ 未解明の問題に対する意見は科学者ごとに違っており、結局のところ人々はそれぞれ信じたい科学者の説を信じるのが合理的なのだといふこと。

オ 現在の問題については、皆が合意できる答えを議論を尽くして導くことができず、科学者ごとの見解を示している状況でしかないといふこと。

問八 ―線⑦「成長するためには傷ついてナンボです」とありますが、そのように言える理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他者との関わりを避けていては、異質な価値観を持つ相手とも柔軟に渡り合えなくなるから。

イ 自分が信じていなかった新たな「正しさ」を知ることが、自分の成長にもつながるから。

ウ 自分の感情に従ってばかりいては、周囲の人々とうまくやることができないから。

エ 他者との対話を通して、今までの自分の価値観を否定した先に新たな自分を見出せるから。

オ 他者に目もくれず自分の感情を尊重してばかりいては、結局問題の解決にはならないから。

問九 筆者は、「正しさ」はどのように作られていくと考えていますか。四十五字以内で説明しなさい。

二 次の文章を読んで、後の一から九までの各問いに答えなさい。

(ただし、字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。)

小学六年生の悠斗はるとは地域の乗馬クラブ「しいの木ファーム」に通っている。悠斗はるとはマリモという馬に乗り、中学二年生の拓也たくやと涼太りょうたというクラブの仲間と一緒に競技大会に出るための練習に日々励はげんでいる。そこにある日、物静かであり話さない、小学五年生の陽向ひなたが入会してきた。陽向ひなたはひまわりという馬に乗ることになった。

次の週の土曜日は、陽向ひなたの要望がまたひとつ通った。

野島先生のじまのレッスンはうけず、したがって馬場にもはいらず、厩務員*1きゅうむいんとしての仕事を手伝い、そのあとは、ひまわりを連れて、サラダバー*2にいきたいということ。

連れに選ばれたのは、涼太りょうたとすばる*3。岡本先生おかもとのレッスンは終わって、洗い場にもどると、隼人くん*4はやとがそれを伝えにきた。①マリモ、残念だったなあと、悠斗はるとはマリモにそとつぶやきかけた。

そして、それらはしだいに慣例化していった。すなわち、ひまわりを連れてのサラダバー通いと、厩務員きゅうむいんの手伝いだ。

陽向ひなたは、土日の二日ともかかさずやってきた。楓*5かえででさえも、どちらか一日だけという週があったから、皆勤賞かいきんしょうのペースなのは、悠斗はるとと陽向ひなただけだった。

陽向ひなたはクラブにいくと、②いちおうは真新しいボダイブプロテクター、ヘルメット、乗馬靴じようばくつなどの乗馬用の道具を身につける。そ

れから、厩舎へいき、厩務員用のつなぎを着ている菅原くと西田くんとともに、もくもくと仕事を手伝う。馬糞をつんだ一輪車を動かしたり、エサの調合をしたり……。

そのうち、厩舎のそうじのほか、洗い場でほかの子どものレッスンのための馬装や、レッスンが終わったあとには、鞍をかたづけたり頭絡をたんだりというような、雑用も進んでするようになった。

それから、毎回隼くんがつきそって、サラダバーへいく。多少の雨天は決行だ。

隼くんは、平等に連れを選んでくれたので、初日のあと、マリモが……したがって悠斗も……選ばれることはなかった。

ひまわりはもちろん、かならずいく。ひまわりしてみれば「ラッキー！」とサインを出して、スキップでもしたくなるよう
なでぎとだけ、いつも変わらず首を下にむけて、陽向のあとをとことこと、「③」従順について歩いていく。

わがまま、といえはわがままなこと、勝手なことをしているといえは、そうともいえた。が、④そればかりではない側面がある
のも事実だった。

悠斗は、馬房や厩舎のそうじ、馬装用具のかたづけなどは、きらいではない。とはいえ、馬と直接ふれあったり、乗っている
うがもちろんもつと楽しい。たいていの子はそうだろう。

芽衣が、「っていうか……」とあって、そのあと首をかしげながらわらった、その意味が、悠斗にもうすうすわかってきた。

陽向は、みんながやりたくない仕事を、みずから進んでやっているのだ。

しかも、会費をはらって。

陽向はそうとう変わっている。

(中略)

陽向のお気に入りのひまわりは、野島先生のクラスに出されることもあるし、洋子先生のクラスに出されることもあった。陽向
は、馬房から連れてきて、馬装を手伝い、また、終わったあとに馬装をとくという、ひまわりとのかかわり方をしたのちに、引き

馬でサラダバーへ連れていく。

その日、悠斗はるとが岡本先生おかもとのレッスンが終わったあとに、馬房ばばうへマリモをもどしていると、陽向ひなたもちょうど、ひまわりを連れて帰ってきたところに出くわした。

陽向ひなたがひまわりの無口*7をはずし、馬房ばばうを出ていこうとすると、ひまわりは鼻づらを陽向ひなたの二の腕うであたりにこすりつけ、二、三回上下させた。

⑤陽向ひなたは、笑顔になった。ひまわりの頭を軽く下からかかえ、ほおずりをする。それから、「またね」と小さな声でつぶやきかけ、出ていった。

あまえたしぐさに見えるけど、ひまわりはただ鼻づらがかゆいだけで、そこにいた陽向ひなたを、木や柵さくのかわりにして、かいているだけだ。馬は、犬や猫ねこのように後ろ脚あしを使えないから、体のどこか、歯が届かないようなところがかゆかったら、近くにあるものにこすりつけてかくしかない。

わかつてはいても悠斗はるとは一瞬いつしゆん、⑥うらやましさを感じた。

マリモは、あんなふうには、人との距離きよりをみずからちぢめるような行動はとらない。たった今も、悠斗はるとが持ってきたにんじんを、当然の権利まへあしとばかりに前脚まえあしでさいそくして、ボリボリ食べたところだ。

小太郎こたろうは、たまにやった。「こ、かゆくってさ。ちよつとたのむよ」ということばがきこえてきそうなほどに、ごしごしと強くこすりつけてきたものだ。

マリモの馬房ばばうの前で、ぼんやりとそんなことを思いめぐらせていると、その日同じレッスンに出ている拓也たくやが声をかけてきた。

「ひまわりは、よくあれをやるよな」

拓也たくやも見えていたのだ。厩舎きゅうしやのなかには、その日のレッスン仲間の、涼太りょうたと楓かえでもいて、それぞれの馬たちの馬房ばばうの前で、馬装ばそうの道具をかたづけしていた。

「だから、見学試乗会担当なんだよ。かわいいし、なつかれた気になるもんな」と、涼太りょうたがわらいながらつぶけた。

「ほんとは、かゆいだけなのに」

「そうかな。わたしは、ひまわりは陽向ひなたくんにあまえてるんだと思う」

楓かえでが、きつぱりとした口調で自分の意見を主張した。

「どうしてそう思うの？」

と、悠斗はるとがききたかったことを、涼太りょうたがたずねてくれた。

「見ていると、そんな感じがする」

「そうかな」

と拓也たくや。百パーセント賛同しているわけではないといった口ぶりだ。

「陽向ひなたくんの、ひまわりを見る目、やさしいよ。あの子には、やさしさパワーがあるんだよ」

拓也たくやと涼太りょうたが顔を見あわせた。ふたりを見ていた悠斗はるととも目が合った。男子三人に、⑦微妙びみょうな空気が流れた。

やさしさパワーってなに？ なんとなくわかるような、わからないような……。でも、楓かえでがそういうのなら、きつとそうなんだよ。まあ、いいじゃん。やさしさパワーってことで……。

ことばにすると、そんな空気だ。

「あの子、どうして乗らないのかきいてる？」

と、楓かえでがだれにもなくたずねた。

「こわいから、なんじゃないの？」 と思いながら、悠斗はるとはだまって楓かえでを見つめた。

「この前、いっしょに引き馬でサラダバーへいったとき、話していたのをきいたんだけど」

話していたって、隼人はやとくんには？　では、話すことができるようになったってことだ。悠斗はるとはまず、そのことにおどろいた。
「ぼくは重いから、馬がかわいそうだっていうの」

「はあっ!？」

と、涼太りょうたがさげんだ。拓也たくやが、ガクツと肩かたを落として見せている。

「なら、おれ、どうすればいいんだ」

「隼人はやとくんは、馬は力持ちで、道産子*8は小さいけど、馬力があって、昔から陽向ひなたくんより重いもの、いっぱい運んできたんだよ。ぜんっぜん平気だよって、一生懸命いっしょうけんめい説得していたけどね」

「陽向ひなたはなんて？」

と、悠斗はるとがきいてみると、

「だまってた」

とのこと。

「だけど、いつまでもこんなことをつづけているわけにもいかないよね」

「どうして？」

どうしてって……どうしてとたずねる理由を、ききかえたいくらいだ。

「だって、ここは、乗馬クラブなんだし、なんか、変だよ。あんなことしてるの。ひまわりだって、えこひいきされっぱなしだし、仕事しないと。ひまわりの仕事は人を乗せることだろ」

「悠斗はるとくんって、意外とシビアなんだね」

楓かえでは、「⑧」口ぶりであった。

「シビア？」

「きびしい？ まじめ？ 優等生的？」

と、楓は三つの単語を、語尾を上げ気味にならべたてた。

ことばの意味がわからなくてききかえしたのではない。シビアでも、きびしくても、まじめでも、優等生的でも、なんといいかえられたって、悠斗は楓に、そんな評価を下されたことが意外で、しかも批判的な意味で使われたことが、ショックでもあった。ようするに、陽向とちがって、ぼくはやさしくないといいたいのだろうか。

でも、やさしくするのとあまやかすのはちがう。岡本先生もそういつていたではないか。ひまわりは、⑨やさしくされているというより、あまやかされているってことにならないのだろうか。

そんな思いがことばにならず、立ちつくしていると、あわてたように、拓也が「じゃまた来週」といつて厩舎を出ていった。涼太も、「またな」といいおいて、拓也を追いかけていき、つづいて楓も、なにこともなかったように、

「じゃあ、また来週ね」

といいながら、厩舎をあとにした。

悠斗の心のなかには、ざわざわと波風が立っていた。

どうやら、陽向は楓のへ押しメンらしい。悠斗の意識のなかで、陽向の存在が急に大きくなってデンといすわったのを感じる。そして、自分がどういう目でマリモを見ているのか、悠斗は今すぐにでも鏡を持ってきて、たしかめてみたくてたまらなかった。

(『馬と明日へ』 杉本 りえ)

〔注〕 *1 厩務員 馬を飼育する小屋である厩舎や馬のいる部屋である馬房で働く人。

*2 サラダバー 雑木林の中にある木々が生えていないいたらかな草地のこと。馬にとってはごちそうの、芽吹いたばかりのやわらかい草を好きだけ食べられる場所のためこのように呼んでいる。

* 3 すばる || 涼太りょうたの乗っている馬の名前。

* 4 隼人はやとくん || 大学生で、指導の補助や厩務員きゅうむいんとして馬の世話をしている。文中の「菅原すがわらくん」と「西田にしだくん」は隼人はやとくんの友人で、しいの木ファームの卒業生。

* 5 楓かえで || 中学一年生の女の子。乗馬の技術レベルも高く、過去の競技大会で入賞したこともある。

* 6 初日ひなた || 陽向が初めて「しいの木ファーム」に来た日のこと。

* 7 無口 || 馬具の一種。

* 8 道産子どさんこ || 北海道産の馬の品種。

* 9 〈推しメン〉 || 自分が他人にすすめたいほど良いと思っている人。

問一 | 線①「マリモ、残念だったなあ」とありますが、何が「残念だった」のですか。その内容として最も適当なものを次のア

〜オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 洗い場へ行き、すぐに汚れよじを落してもらえないこと。

イ レッスン後にサラダバーへ行き、草を食べられないこと。

ウ 隼人はやとくんが待っているところへ行き、遊んでももらえないこと。

エ レッスンの時に馬場で、ひまわりと一緒いっしょに走れないこと。

オ ひまわりが毎回サラダバーに行くことになったこと。

問二 ―線②「いちおうはく身につける」とありますが、ここで「いちおうは」と表現されている理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 陽向ひなたは服装だけ見ると乗馬が得意そうだが、実際は馬に乗ることが下手だったから。

イ 陽向ひなたは馬そのものに興味がないのに、乗馬するための服装をしているから。

ウ 陽向ひなたは馬の世話しかないのに、競技大会で入賞しそうな服装をしているから。

エ 陽向ひなたは乗馬のための服装をしているものの、ひまわりに乗ることはなかったから。

オ 陽向ひなたは乗馬に興味があり服装も整えたが、馬が怖こわくて近寄ることができないから。

問三 空らん「③」「⑧」に入る言葉として最も適当なものを次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

「③」 ア しおらしく イ あどけなく ウ なごやかに エ しなやかに オ ほがらかに

「⑧」 ア こまった イ ふざけた ウ やわらかな エ さわやかな オ しんらつな

問四 ―線④「そればかりではない側面」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア みんながやりたがらない仕事をすることで、先生に気に入られて自分が自由にふるまうことができるようにすること。

イ 馬にふれあうことにこだわらず、文句ひとつ言わずに様々な雑用をこなしていくため、芽衣めいに気に入られていること。

ウ 厩舎きゅうしやのそうじやレッスン後のかたづけといった雑用などみんなが進んで行わない仕事を、みずから進んで行うこと。

エ クラブのみんなが雑用よりも馬にふれあいたいだろうという思いを感じ取り、みんなのために雑用を進んで行うこと。

オ 雑用を通して馬との信頼関係を築いているため、実はクラブの誰よりも乗馬がうまく、入賞する可能性もあること。

問五 ー線⑤「陽向ひなたは、笑顔になった」とありますが、その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ひまわりがほおずりをしてくれたことで自分が一番好かれていると思ひ、得意に感じているから。

イ ひまわりに木や柵さくのかわりにされていると気付き、いらだちながらも平常心を保とうとしているから。

ウ ひまわりがなでてもらうために頭をさげてきた仕草をうれしく思ひ、かわいいと感じたから。

エ 馬具を外したことでひまわりの喜んでいる様子があまえた仕草からわかり、安心したから。

オ 自分の腕うでにひまわりが鼻づらをこすりつけてくる仕草から親しみを感じ、うれしく思ったから。

問六 ー線⑥「うらやましさを感じた」とありますが、その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ひまわりにあまえられていると喜んでいる陽向ひなたを見て、自分も乗馬を始めたばかりのころは馬に鼻づらをこすりつけられた時に喜びを感じたことを思ひ出したから。

イ 一緒に競技いっしょをしている自分にも決してあまえてこない、人が苦手なマリモとは違ちがい、ひまわりは陽向ひなたに対して心から信頼しんぱんしているように感じたから。

ウ 鼻づらがかゆいだけだとはわかっているが、ひまわりの人なつつこく見える態度を、マリモにも自分に対して見せてほしいという思ひがよぎったから。

エ 小太郎こたろうはあまえたしぐさを見せていたことを思ひ出し、自分にあまえてくれないマリモにもつとなついでしてくれてもいいのにと不満を感じているから。

オ マリモは鼻づらがかゆい時に鼻づらを自分にこすりつけてくることがないため、ひまわりに自分も鼻づらをこすりつけてあまえられてみたいと思ったから。

問七 ー線⑦「微妙な空気」とありますが、ここでの三人はどのような様子ですか。その説明として最も適当なものを次のア〜オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 楓が急に陽向のことを「やさしい」と言い始めたことにおどろきはしたが、陽向と仲の良い楓が言うことなので間違いはないのだろうと考え、自分たちが陽向に否定的であったことを反省している。

イ 楓も自分たちと同じように陽向のわがままなふるまいに対して不満を感じていると思っていたのに、楓が陽向のことをかばうような発言をしたため、裏切られたような気持ちになっている。

ウ 陽向のことを「やさしい」と楓が評価したことに関論しようと思っただが、隼人くんとのお話を聞いていたなど楓が陽向のことをよく知っていることを知り、自分たちには何も言えないと考えている。

エ 自分たちは今までの陽向の態度を、楓が言うような「やさしさ」ととらえるのは納得できない部分もあるが、否定するほどでもない、今はとりあえず楓に言い返さずにいようと思っっている。

オ ひまわりにあまえられていると勘違いしている陽向をばかにしていたことを楓に注意され、その上陽向に対する考えを改めるように言われ不満を感じたが、楓を怒らせると怖いため、だまっっている。

問八 ー線⑨「やさしくされているというより、あまやかされていることにならないのだろうか」とありますが、悠斗がそのように考える理由として最も適当なものを次のア〜オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 陽向を乗せることもしないのに、みんなにやさしくされ大切に扱われているひまわりいきどおりを感じているから。

イ 毎回サラダバーに連れて行ってもらっているのに、本来の仕事をしていないひまわりの扱いが釈然としないから。

ウ マリモはなかなかサラダバーに行けないため、おいしい草をたくさん食べられるひまわりをずるいと思っっているから。

エ 先生たちに要望を出せばなんでも通り、自分勝手なふるまいをすることができる陽向をうらやましく感じているから。

オ レッスンを受けていないのに、楓に認めてもらうほど陽向とひまわりの関係ができていることをひがんでいるから。

問九 本文を読んだ後に六人の生徒が会話をしています。本文の内容と合っているものを次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 生徒A…この作品は、たくさんの人や馬が登場していたよね。芽衣がどういう人かわからないけど、彼女をぬかしたら、
しいの木ファームに通ってレッスンを受けている子は全部で八人だよ。

イ 生徒B…そんなにいたかなあ。馬も四頭出ている、人と同じような名前の子もいたね。どの子もみんなあまえんぼうで、
腕に鼻づらをこすりつけたり、にんじんを要求したりしていたね。

ウ 生徒C…陽向は楓に「やさしさパワー」があるってほめられていたよ。隼人くんは陽向が自分の体重が重いから馬がか
わいそうって発言をしたと楓から聞いたときには、涼太もびっくりしていたね。

エ 生徒D…陽向の「やさしさパワー」については、悠斗は納得していなかったみたい。それどころか楓に対して、陽向が
自分勝手にわがままだと悠斗は言っていて、やさしくない人だと楓に言われちゃったよ。

オ 生徒E…楓に批判的なことを言われたことが悠斗はショックだったと思うなあ。楓たちと別れた後も、陽向についてや
マリモとの関係性についてなどいろいろ考えていたよね。

カ 生徒F…悠斗は、どんな性格の子だろう。楓はシビアな人って言っていたけど、涼太たちと仲良いし、陽向のことも助
けているよね。楓もその良さを理解してくれたらいいのに。

